

国保病院で初の「胃がん」に対する内視鏡治療を施術!!

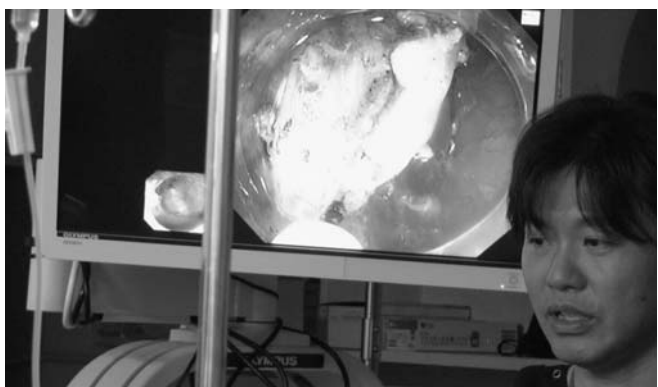
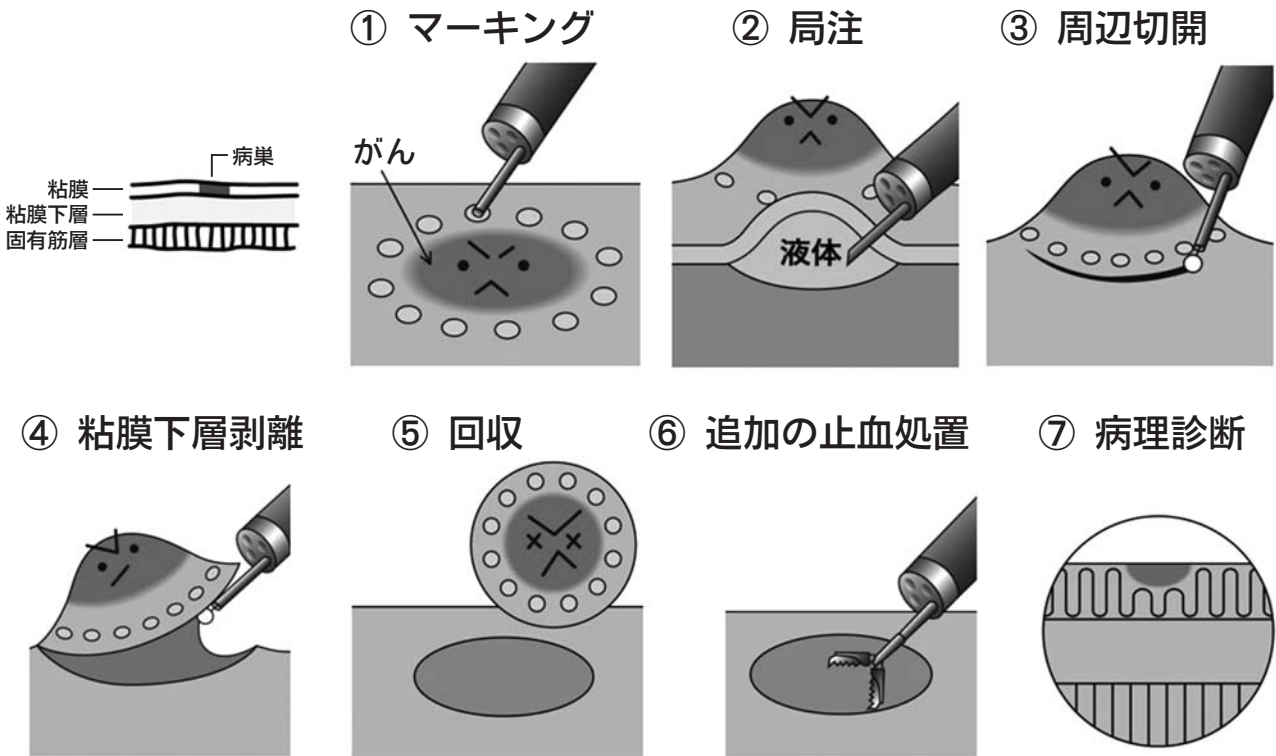
8月3日に2人の患者さんに当院で初めてとなる、胃がんの内視鏡治療（内視鏡的粘膜下層剥離術）を行いました。

2人とも予定通りに終了し、治療後も大きな合併症はなく、1週間程の入院で退院されました。顕微鏡で詳しくみる検査（病理診断）も、がんは根治切除できているという結果でした。

みなさんはがんと聞くと、どういう印象をお持ちですか？がんは治らないという印象を持たれている方が多いと思いますが、早期のがんであれば治すことができます。消化器がんの場合、早期（粘膜にとどまっている状態）であれば、切除することでほぼ100%治癒することが期待できます。また従来は全身麻酔による開腹手術で切除していたものも、低侵襲に内視鏡的に切除可能になってきています。そのため、高齢、合併症のある方でも、安全に、島外の医療機関に受診することなく治療が可能です。

しかし、内視鏡治療するためには、早期にがんを見つけなくてはなりません。当院では、最新の内視鏡機器への更新、内視鏡技術の向上に努め、消化器がんの早期発見を目指しています。現在、胃がん検診ではバリウムによる胃透視が一般的ですが、実は早期のがんを見つけることは困難です。がんの早期発見、早期治療のために、一度内視鏡検査を受けることをおすすめします。

ESD (endoscopic submucosal dissection) (内視鏡的粘膜下層剥離術)



画像を見ながら慎重に行う泉里副院長



岸和田徳洲会病院の医師が指導